

令和6年度 自己評価表【中間】

鳥取県立鳥取緑風高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2 夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3 社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4 基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5 生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6 自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7 自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成	今年度の重点目標	1 基本的生活習慣の定着を促す。 2 生徒が主体的に取り組む授業づくり、深い学びにつながる授業づくりに努める。 3 個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実に努める。 4 視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実に努める。
-------------------	---	----------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 （ 9 ）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基本的生活習慣の定着	生活の自律	○多くの生徒が時間を厳守した行動ができている中、決められた時間に行動できていない生徒も若干名いる。 ○教室は日常の清掃によりきれいに保たれているが、食堂のゴミ分別状況等をみると、環境配慮行動に対する意識は、まだ十分とは言えない。 ○定期的な個人ロッカー内の点検、指導により、私物管理が身に付きつつある。 ○就寝時刻が遅い生徒が多い。（R5：午前1時以降就寝が約40%） ○むし歯保有率はこの3年間で改善傾向ではあるが、県平均と比較すると依然として高く、継続治療による保有率低下が必要。（県平均保有率12%、R5：本校保有率43%、治療率21%）	○基本的生活習慣を意識した行動ができている。 ○環境美化に関心を持ち、身の周りの整理整頓や清掃ができている。 ○午前1時以降就寝の割合が35%以下になる。 ○むし歯保有率50%以下、治療率20%以上である。	○【緑チャレ】との連動も意識した日常の声かけや面談をとおり、基本的生活習慣の指導を行う。 ○身の周りの整理整頓、ゴミ分別の徹底を指導し、環境美化に努める。 ○ライフスタイル調査による生活実態の的確な把握と分析を行い、基本的生活習慣定着が不十分な生徒については、個別の声かけや指導を粘り強く行う。	○【緑チャレ】との連動により基本的生活習慣の改善が見られ始めた。 ○「私は、時間を守り、みずからあいさつをするよう心がけている。」に肯定的回答した生徒の割合は79%である。 ○「私は、周りの人への思いやりの心を持ち、円滑な人間関係を築くよう心がけている。」に肯定的回答した生徒の割合は89.1%である。 ○授業日の午前1時以降就寝の割合は24%で、R5より16ポイントアップである。 ○R6むし歯保有率は56%で、現時点の治療率は14%である。	C	○【緑チャレ】を活用し、ロッカーの管理について引き続き指導する。 ○日常的な挨拶や声かけを継続し、基本的生活習慣定着の一助とする。 ○身の回りの整理整頓、ゴミ分別を引き続き指導する。 ○休日の就寝時刻(1時以降就寝40%)への継続指導を行うことで、就寝時刻の改善を図る。 ○むし歯保有率の低下、治療率の向上に向け引き続き保健指導を行う。
	個に応じた学力の向上	○「多くの授業は、ICT機器などを使用し、工夫されていてわかりやすい。」に肯定的回答した生徒の割合は82.8%、「先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問にいてねいに応じてくれる。」については94.1%である。 ○【まなトレ】の取り組み内容においては多少の課題を感じつつも、互いに教えあう姿も見られ、学習意欲の醸成にも繋がっている。 ○昨年度の年間単位修得率は定時制78.6%、通信制83.9%で高い率である。 ○進路指導部が各年次、部課程と連携することで、課外指導や模試活用による指導・助言（進学希望者）、CA(キャリアアドバイザー)面談や【まなトレ】等によるコミュニケーション能力、基礎学力の向上（就職希望者）を図っている。	○「多くの授業は、ICT機器などを使用し、工夫されていてわかりやすい。」に肯定的回答する生徒の割合が75%以上である。 ○社会生活をより良く営むために必要な基礎学力を身につけている。 ○授業を欠席しない環境を醸成することで、単位修得率の向上をめざす。（定時制65%以上、通信制70%以上） ○基礎学力の向上により進路を意識した学習に取り組む生徒が増え、上級学校入学試験や就職試験に対応できる学力を身につけている。	○ICT機器を活用した授業実践や公開授業の促進により、生徒が主体的に取り組み、深い学びにつながる授業の工夫・充実に努める。 ○【まなトレ】や課外指導により基礎学力向上を図り、生徒が将来の生き方を見つめる一助となるように努める。 ○毎日の声かけや年間6回の生徒面談を行う。また、教職員間の情報交換を頻繁に行うことで生徒理解に努め、個別のきめ細かい指導を行う。 ○生徒進路希望を把握し、進路指導部と各年次、部課程が連携することで、個々の生徒に対する計画的な指導、支援に努める。 ○就職希望の生徒に対しては、CA面談や各種進路行事に確実に参加するように指導する。	○「多くの授業は、ICT機器などを使用し、工夫されていてわかりやすい。」に肯定的回答した生徒の割合は97.9%である。 ○【まなトレ】に集中して取り組む生徒が多く、教え合う様子も見られている。 ○生徒は、校外模試、課外指導、CA面談、まなトレ等を活用して、就職・進学に対応できるコミュニケーション力、学力を身に付けつつある。 ○公開授業週間の設定により、教員相互の指導力向上に努めた。 ○特別支援教育支援員を含む教職員間での密な情報交換により、個別のきめ細かい学習指導ができています。 ○「多くの授業は、内容が充実しており満足している。」に肯定的回答した生徒の割合は89.2%である。 ○前期単位修得率は、定時制77.3%、通信制92.4%である。	B	○各部課程、年次、進路指導部の密な連携により、引き続き個別の指導、支援をしていく。 ○個々の生徒の特性を理解した上で、基礎学力定着に向けた適切な支援に努める。 ○多様な生徒がより授業を理解できるよう、授業のUD(ユニバーサルデザイン)化を一層工夫する。 ○授業内容の精選、発問や説明の吟味、協調学習の取組など、授業の改善・工夫に努める。 ○12月の公開授業週間で、更なる教員相互の指導力向上に努める。
生徒が主体的に取り組む授業づくり、深い学びにつながる授業づくり	意欲向上と自信づくり	○特別支援教育支援員のサポートにより、生徒が安心して授業に取り組んでいる。 ○資格取得を促し、【まなトレ】を活用しての準備学習を行っているが、受験する生徒は多くない。 ○【鳥取緑風高校での高校生活は全体的に満足できる。】に肯定的回答した生徒の割合は90.1%である。 ○外部講師による授業やガイダンス・体験活動は、生徒の学ぶ意欲向上につながり、オープンキャンパスへの参加も増えた。 ○進路に関する各種講演会、講習会は生徒の進路意識を喚起する良い機会となつてはいるが、意識の継続、具体的な行動への繋がりは充分ではない。 ○「私は、将来働いてみたいと思う仕事がある。」に肯定的回答した生徒の割合は約70%である。	○各種資格試験、検定等の合格をめざし、積極的に学習に取り組んでいる。 ○【鳥取緑風高校での高校生活は全体的に満足できる。】に肯定的回答する生徒の割合が75%以上である。 ○進路に関する各種行事や活動への積極的参加により、学習意欲や進路意識の向上を図り、自己実現や進路実現に向けた生活をしている。 ○「私は、将来働いてみたいと思う仕事がある。」に肯定的回答する生徒の割合が75%以上である。	○各種資格試験、検定等にチャレンジすることを勧め、適性のある生徒に対しての個別案内や支援も行う。 ○特別支援教育支援員による授業サポートや、学生教育ボランティア（緑風ソシオ）による学習指導補助等をとおして、学習意欲の向上に努める。 ○生徒の実態や課題に即した講演会や体験活動を行う。 ○進路探究の時間や面談を活用し、生徒の自己理解、職業理解を進める。 ○進路ガイダンス、進路LHR、CA面談などで自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。	○検定・資格の案内を行い、進路目標に応じて取得するように、いろいろな場面で勧めている。 ○緑風ソシオの活用で、生徒の学習意欲の向上をめざしているが、前期実績はない。 ○【鳥取緑風高校での高校生活は全体的に満足できる。】に肯定的回答した生徒の割合は88.6%である。 ○多くの生徒が、校内外の進路ガイダンスに意欲的に参加し、進路意欲を高めていた。 ○多くの科目や特別活動において外部講師を活用し、生徒の学習意欲向上を図っている。 ○特別支援教育支援員による授業時間内外のサポートをとおり、生徒の学習意欲向上や基礎学力定着に努めている。 ○「私は、将来働いてみたいと思う仕事がある。」に肯定的回答した生徒の割合は72%である。	B	○生徒の適性や進路目標に応じて、資格や検定の案内を個々にも行う。 ○緑風ソシオには後期から1名参加するが、学生をさらに募集して、学習意欲向上に努める。 ○後期の進路ガイダンス、進路LHR、【緑チャレ】等の機会を活用して、進路意識の向上を図る。 ○一人ひとりの生徒を多角的に理解して支援できるように、引き続き教職員とSCや特別支援教育支援員との情報交換や連携を行う。

個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	生徒の内面を理解しそれを生かした指導	○担任面談やSC(スクールカウンセラー)面談等の充実により、生徒理解が深まっている。 ○各年次、部課程の情報交換やSC・SSW(スクールソーシャルワーカー)連絡会、教育相談係会の定期的開催により、職員の共通理解のもとでの個別支援対策ができています。 ○専門医相談会等とおし医療機関との連携強化を図っている。 ○[先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問にいてねいに応じてくれる。]に肯定的回答した生徒の割合は94.1%である。	○前年度に比べて不登校生徒の割合が減少している。 ○教職員が情報共有し具体的な個別支援対策を行うことで、生徒が自立へと努力している。 ○[先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問にいてねいに応じてくれる。]に肯定的回答する生徒の割合が80%以上である。	○担任等による個人面談や様々な場面を捉え、生徒一人ひとりの関わりを大切にした指導に努める。 ○教育相談係会を隔週、SC・SSW連絡会を毎月行うことで、個別具体的な支援策の策定、実行に努める。 ○校内支援委員会の活用や、各種外部専門機関と連携することで、組織的支援体制の充実に努める。	○生徒の実態把握調査結果を個別の支援対策に活用し、SCやSSWを含む関係職員で情報共有しながら、生徒支援へつなげている。 ○生徒の実態に応じた職員研修会等の実施により生徒理解に努めている。 ○[先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問にいてねいに応じてくれる。]に肯定的回答した生徒の割合は91.7%である。	A	○生徒個々に応じた支援のために通級指導や外部機関との連携を図る。 ○引き続きSC定期面談やSSWの家庭訪問同行等を実施し、生徒の状況把握に努め、各部課程・学年等で情報共有し連携を深める。
	自立をめざす生徒指導	○多くの生徒が挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気が醸成されてきている。 ○[私は、ルールやマナーを意識した行動をとるように心がけている。]に肯定的回答した生徒の割合は90.8%である。 ○様々な進路学習や面談等とおし、進路目標が明確になる生徒が増加傾向にある。 ○【チャレンジシート】の活用は一定の役割を果たしつつも全体には及んでいない。 ○担任や進路指導部による継続的な面談は、生徒の自己理解促進やキャリア設計能力、社会性育成の一助となっている。	○お互いを思いやる心や自律性、自主性の向上により、社会で信頼される行動がとれる。 ○[私は、ルールやマナーを意識した行動をとるように心がけている。]に肯定的回答する生徒の割合が75%以上である。 ○身近にある差別やいじめに気づき、その解消に向けて取り組んでいる。 ○通級指導などの個別指導により、自己理解、自己実現に繋がっている。 ○【チャレンジシート】の活用により、自分の課題を意識し改善しようと努力している。	○生徒一人ひとりととの関わりを大切に声かけや挨拶を交わし、他者に配慮した言動などが身につくよう努める。 ○ルールやマナーの適宜指導で規範意識の向上に努め、いじめアンケートの活用等により、いじめや問題行動の未然防止、早期発見を行う。 ○生徒個々に応じた校内の支援体制(通級指導等)を確立するとともに、外部機関と連携しながら進路実現に向けた力を育成する。 ○人権教育LHR・人権学習講演会等の充実により、人権意識の向上に努める。 ○【チャレンジシート】の活用充実により、スモールチャレンジの推進に努める。	○多くの生徒は挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気が醸成されてきているが、SNS等を介したトラブルも散発している。 ○[私は、ルールやマナーを意識した行動をとるように心がけている。]に肯定的回答した生徒の割合は90.4%である。 ○通級指導により、生徒の個別課題に応じた体制づくりを構築している。 ○自立や社会参加に向けた進路選択のきっかけ作りとして、親子で事業所を見学する機会を企画した。生徒12名、保護者7名が参加した。(R5は生徒9名、保護者4名) ○【チャレンジシート】を継続的に活用している生徒の割合は3割ほどで、継続性に課題が残る。しかしながら、担任以外に個々の生徒を担当する職員の存在があることで、生徒は進路や生活面でのさらなるサポートを得やすい状況になっている。	B	○引き続き粘り強く、全教職員で生徒への声掛けや個々の背景に応じた指導を行っていく。 ○SNS等の利用に関して、ルールやマナーを適宜指導しトラブルの未然防止、早期発見に努める。 ○生徒・保護者の希望のみならず、生徒実態把握による生徒理解に努め、職員間の連携を図りつつ、生徒の支援にあたる。 ○保護者懇談や生徒面談を通して、生徒の自己理解を早い段階ですすめる。 ○より多くの生徒が【チャレンジシート】を継続的に活用できるように再検討する。
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	体験活動の活用	○TEASⅡ(鳥取県版環境管理システム)の環境改善目標は概ね達成できている。 ○生徒会執行部を中心として、各種行事の企画・運営ができています。 ○定通総体、県生連大会では、複数の部で優勝や入賞を果たし、全国大会に出場した。 ○アルバイトやインターンシップなどの経験を通し、多くの生徒が自信を付けたり、自己の課題を認識するなど成果を得ている。	○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源・省エネルギー・SDGsに関する意識が高まっている。 ○校内外の各種活動に生徒が積極的に関わっている。 ○アルバイトやインターンシップなどの経験が進路選択の一助となり、コミュニケーション能力、自己肯定感が高まる生徒が増えている。 ○卒業までにアルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組んだ生徒の割合が80%以上である。	○具体的な環境美化活動等に繋げる、TEASⅡの適切な運用を行う。 ○各種委員会や学校行事、【緑チャレ】において、生徒会執行部を中心とした生徒の主体的な活動となるように支援する。 ○担任や教育相談部と連携して情報を共有しながら、生徒個々の状況に合わせ、インターンシップを原則2年次終了までに体験するよう推進する。また、アルバイトについては学校生活が第一という考えのもと、本人や家庭との協議のうえ、事業所紹介等を行っていく。	○[学校は、ゴミの分別や持ち帰り、資源の節約などの環境問題について力を入れて取り組んでいる。]に肯定的回答した生徒の割合は87.9%である。 ○定通総体では全国総体へ出場する部もあった。県生連大会には20名を超える生徒の参加があった。 ○多くの生徒がインターンシップやアルバイトに取り組み、進路意識や自己肯定感を向上させると共に、自身の将来への課題を認識することもできた。 ○卒業までにアルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組んだ生徒の割合が80%以上である。	A	○【緑チャレ】や【チャレンジシート】の目標・取り組みに取り上げるなど、個々の意識を高める。 ○緑風祭や学校行事等の中で、生徒同士が主体的に話し合ったり、協力し合ったりする場面をつくる。 ○引き続きインターンシップ、アルバイトの積極的な活用を推進する。
	集団への適応力の育成	○個別面談や各種研修結果を踏まえ、UD(ユニバーサルデザイン)の視点で学習環境を整え、誰もがわかりやすい授業の展開に努めている。 ○SC面談やSSWとの連携等により、生徒状況の把握に努めている。 ○[鳥取緑風高校は、自分にとって安心して通える学校だ。]に肯定的回答した生徒の割合は92.1%である。 ○生徒課題等に対し、保護者と関係者が連携を密にすることで、組織的対応ができています。	○hyper-QUの結果において、強い孤立感や孤独感が示唆されている生徒の数に顕著な改善がみられる。 ○[鳥取緑風高校は、自分にとって安心して通える学校だ。]に肯定的回答する生徒の割合が80%以上である。	○【緑風ハートフル】等の活動をとおして他者との関わり合い、人間関係づくりを促す。 ○担任とSC、SSWとの協力体制の強化により、生徒の人間関係づくりを支援する。 ○様々な課題を抱える生徒に対し、適切な関わりを粘り強く行う。	○hyper-QUの結果を担当や部課程職員で共有し、気になる生徒についてSCよりアドバイスをいただいた。 ○【緑風ハートフル】は、生徒の人間関係づくりの一助となっている。 ○長期欠席等の生徒に対して担任、教育相談部や進路指導部などが連携して働きかけ、仲間作りや様々な体験につなげている。 ○[鳥取緑風高校は、自分にとって安心して通える学校だ。]に肯定的回答した生徒の割合は87.9%である。	B	○様々な課題を抱える生徒に対し、引き続き適切な関わりを行う。 ○転編入生や長欠の生徒については、学期開始後早々に担任・SC面談を実施する。 ○教育相談部と進路指導部、生活指導部等との連携を密にし、生徒個々に応じた支援をし、必要に応じてSC面談や専門機関につないでいく。
業務改善の取組	時間外勤務時間の縮減	○時間外業務時間月45時間以上の者はいない。 ○会議は1時間以内に終わるよう取り組んでいる。 ○学校行事等により長時間勤務となる時期がある。	○業務の削減、簡素化、見直しを行い、業務が効率的に行われる。 ○関係者間で情報共有されることで組織的対応を可能とし、年次有給休暇を取得しやすい環境となる。	○日ごろから教職員の業務内容や勤務状況を把握し、時間外業務が多くならないように声かけを行う。 ○会議の効率化、業務の精選を意識した行動を心がける。(事前準備等) ○長期休業中、定期考査中の年休取得の呼びかけを行う。	○時間外業務時間は、昨年度比で20%以上の改善がみられた。しかし、特定時期に一部の担当に業務が集中している状況がある。 ○会議実施時間は概ね1時間以内である。	B	○衛生委員会での時間外業務時間データを注視しながら、引き続き教職員への声かけを行う。 ○前年踏襲に拘ることなく、効率的な業務遂行に努めていく。 ○長期休業中や考査期間を中心としながら、年休取得の呼びかけを行う。